

## 第2回湯沢・雄勝地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日時 令和8年3月19日（月） 午後5時から午後7時まで
- 2 場所 オンライン会議
- 3 出席委員 委員13名中13名出席（代理出席者を含む）

氏名	役職等	氏名	役職等
小野崎 圭助	湯沢市雄勝郡医師会長(有床診療所代表)	鎌田 敦志	町立羽後病院長
小松田 敦	雄勝中央病院長	武部 浩一	佐藤病院長代理 事務長
秋野 一尚	湯沢市・雄勝郡歯科医師会副会長	海野 哲也	秋田県薬剤師会湯沢雄勝支部監事
小野 洋子	秋田県看護協会湯沢・雄勝地区	今野 渉	全国健康保険協会秋田支部企画総務グループ長
藤原 紀和	特別養護老人ホーム「松喬苑」施設長	阿部 真美	湯沢市稲川・皆瀬地域包括支援センター所長
高橋 千賀子	湯沢市福祉保健部健康対策課長	伊藤 和恵	羽後町健康福祉課長
高橋 弘克	東成瀬村健康福祉課長		

### 4 議事等

#### (1)報告事項

##### ①年末年始における救急医療の実施状況について

###### 【事務局】

（資料により説明）

###### 【雄勝中央病院長】

- ・補足だが、今年はインフルエンザの流行が年末年始にぶつからなかったというのもあるし、クリニックの先生方の応援もあって良かった。
- ・今回は湯沢市から発熱外来を開いてくれたクリニックの先生方に、施設に湯沢市から手当てがあったということもあって良かったと思う。ただ、来年も継続するためにはそういう予算も必要かと思うので、市単独ではなく県からの何らかの補助もあればいいのかなという話はあった。

###### 【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・特別なことはなかったが、協力していただける先生が今回は3名しかいなかったが、年末年始に関しては今後も協力していただける先生は増えてくるかもしれないと思っている。
- ・ただ、今年だけでいいというわけではなく、おそらく今後も来年も再来年も正月をどうするのか、もしくはゴールデンウィーク中をどうするのかということも今後医師会の理事会で提起しようと思っている。
- ・声が1番多いのが、自分のところを開けるのはさすがに職員のこともあるので難しいということなので、どこかに集約してやるのであれば協力するという医師はいっぱいいるので、その辺は今後検討課題かと思っている。

##### ②令和7年度外来機能報告について

【事務局】

(資料により説明)

※委員からの意見なし

③現地域医療構想の振り返りについて

【事務局】

(資料により説明)

【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・12 ページについてに関連して、この地域では慢性期や回復期を増やしていかないといけないと僕自身は思っている。
- ・特に大曲厚生医療センター等が満床に近くなっている。これから増える高齢者救急で搬送した人が治療を終わっても行き先がないということが問題の1つである。
- ・退院できる場所がないということで困っているということなので、今後はそういった高齢者救急の回復期や慢性期をこの地区の役割分担で考えていかなきゃいけないと思っている。
- ・そのようにしていかないとこの地区は生きていけなくなるのかなと思っている。

【町立羽後病院長】

- ・今の小野崎先生の話にも関係するが、やはり私たちもそのように感じている。
- ・我々も急性期の病院へ患者を送り、その方が戻ってくる。戻ってきたらいいけれども、我々の病院も満床で受け入れることができない状況がある。
- ・そうした場合、我々は施設の方に相談するが、施設もいっぱいになってきていて、なかなか受け入れてくれない。そうなる我々も滞ってしまっていて困ってしまう。
- ・なので、施設との連携を強化しなければと考えている。

(2)協議事項

①急性期拠点病院を中心とした複数の役割分担案について

【事務局】

(資料により説明)

【町立羽後病院長】

- ・当院は手術症例患者も減り、医師の減少で外科を手放した。
- ・外科手術はしないが、整形の手術だけは残している状態である。我々の立ち位置としては高齢者救急と在宅医療をやっていく方針としている。
- ・我々の地域の人も実際は横手が拠点病院になった場合でも、自分の体は自分で守ることが大体メインなので、そちらの方には文句は言われたいと思われる。
- ・多少遠くても大曲に行こう、横手に行こう、秋田に行こうとなった場合には文句も言わず行ってくれている状態なので、急性期に関しての距離という面では特に問題はない

のではないかと思っている。

**【雄勝中央病院長】**

- ・ 当院も 4 月から外科手術ができないということもあり、自然に機能が集約されてきている状況なので、急性期拠点病院との連携を強めていくことにしている。
- ・ 事務方も含めて色々情報共有しながら、毎日ベッド状況をお互いに把握するというようなことを話し合っているところで、より連携を強めていく方向になっている。

**【佐藤病院事務長 院長代理】**

- ・ やはり身近なところに拠点病院がないことについて、若干抵抗があるというのが本音である一方で、人口減少等色々なことを考えた場合はやむを得ないのかなとも思っている。

**【湯沢市雄勝郡医師会長】**

- ・ 今後の診療報酬改定のことも考えると、この 16 ページにある真ん中のように、平鹿総合病院がおそらく拠点病院になって、今すぐではないが当地域の病院は基本的に高齢者救急・地域急性期機能ということで地域リハビリなどに重点を置く必要がある。
- ・ 在宅連携についても、市立大森病院や町立羽後病院、雄勝中央病院も一部入るかもしれないが、そういう体制でダウンサイジングを含めてしていくということがやっぱりこの地域での生き残りに必要なことだと思う。
- ・ 雄勝中央病院と町立羽後病院が存続しないとこの地域の医療を守れないので、そういった形で医師会も含めてバックアップしていきたい。

**【雄勝中央病院長】**

- ・ 診療報酬の話もあって、今色々分析して話し合っているところだが、やはり国の方向性に従うような形になっていかざるを得ないと思う。

**【町立羽後病院長】**

- ・ 同様の意見である。

**【湯沢市・雄勝郡歯科医師会副会長】**

- ・ 外科がなくなることで、歯科が関与できる周術期の口腔管理の件数がかなり減ってくるだろうということも関連の会議で出ていたが、そういうことは考えられる。
- ・ 私らが協力できることは医科歯科連携がないとできないことなので、その連携をこれから強化していくことが歯科医師会の役目かと思っている。

**【県薬剤師会湯沢雄勝支部監事】**

- ・ 病院薬剤師の確保について、人が少ないということで色々県の方でもやっていただいているので、引き続きそちらの事業を継続していただきたい。
- ・ 入職されても若い人が結構辞めてしまう現状もあるので、そちらの対応もしていただけ

ると助かる。

・あと、湯沢・雄勝郡に関して、規模の大きい薬局がないため、施設を対応する調剤薬局が大変という話を最近聞いたので、大きな病院から小さい病院に行ってその患者が施設に行った時に、薬局で対応ができるような形も構築していただけたらいいかなと思った。

#### 【県看護協会湯沢・雄勝地区】

・様々な役割分担であるが、やはり慢性化する人員不足の対応を看護協会としてはしていきたいと思っている。

・何をすることもやはりマンパワーというのは必要だと思うので、人材確保や育成に関する取組を県としても推進していただきたい。

#### 【全国健康保険協会秋田支部】

・分析のところで保険者としてはレセプトのデータを持っているので、それらを分析した患者流出入の状況であったり、医療の供給状況などから、医療圏ごとの現状の方を把握できるようなデータの方の提供とか発信して県の分析に協力できればと考えている。

#### 【特別養護老人ホーム「松喬苑」施設長】

・福祉施設も医療施設も人口減少、マンパワーの不足が一番の懸念だと思っている。

・基幹病院を急性期病院にした形の役割分担というものはやむを得ない形なのかなと思う。

・いずれ町にある施設に関しても将来的には集約をしてマンパワーを集結していかなければいけないのかなと思っている。

・そして老人ホームにある短期入所の機能を高めていって稼働率を上げて病院からの受け入れをどんどんできるような力を備えていければいいと思った。

#### 【湯沢市稲川・皆瀬地域包括支援センター所長】

・日頃から各病院の先生方を始めケースワーカーとの連携をしながら退院支援の方を進めているので、まず地域での医療機関の役割を理解して、在宅復帰や施設入所をスムーズに進めることが私たちにできることかなと思っている。

#### 【湯沢市】

・行政の立場として、地域医療の確保の維持に少しでも支援できればということで、病院の先生方、医療機関の方々と協議を重ねているところである。

・体制整備や、運営支援を検討しているが、財政支援については市としても課題があり、今後分析の視点に行政の支援のところに財源の費用対効果とかあるが、そちらの点を活用しながら市でも財政支援の確保に努めていきたいと思っている。

・市民としてはやはり救急の病院が少し遠くなるというイメージを持たれている方もいると感じており、アクセス面の点で行政として何かできるものはないかなということは今検討したいと思っている

#### 【羽後町】

- ・アクセス面でのサポートは行政の方で検討していかなきゃいけないと思っている。
- ・小野崎先生や鎌田先生が言ったように退院支援の強化や、身寄りのない方への対応、意思決定支援なども行政としてバックアップしていかなきゃいけない場面なのかなと考えている。

#### 【東成瀬村】

- ・今回の役割分担案を見させていただいて、だいぶ整理されてきて分かりやすいので、私個人としては理解できたし、賛成の方向でいいのではないかなと思っている。
- ・東成瀬村は一番医療機関より遠いところにあるので、住民の理解が得られるように伝えていけたらと思っている。
- ・財政面は厳しいところもあるので、色々な角度から検討していければなと考えている。

#### 【県医務薬事課長】

- ・高齢者救急機能について一定の外科が必要ではないかという意見が他の地域であった。
- ・これについて雄勝中央病院では外科を減らす方針も示されているが、こういったことについて何か課題や懸念されることがあれば伺いたい。

#### 【雄勝中央病院長】

- ・外科の患者には、急性腹症もいるが、対応できる病院が決まっているので、そこにいかにスムーズに搬送できるかというのを平鹿総合病院や市立横手病院と連携を密にしながらやっていきたい。

#### 【湯沢市雄勝郡医師会長】

- ・この地区の高齢者救急で一番多いのは骨折と肺炎である。
- ・そうした場合もちろん手術を要する急性腹症や吐血、下血などについては小松田院長が言ったように平鹿総合病院や市立横手病院に送るということできているが、やはり骨折などに関しても、雄勝中央病院、町立羽後病院の整形で受入れ手術はできるので、そこは問題ないと思う。
- ・誤嚥性肺炎やコロナ等々の感染症の対応については今まで通り、基本的に人工呼吸器を必要とするようなものは別だが、そこは雄勝中央病院や町立羽後病院の方でトリアージしていく必要がある。
- ・必ずしも高齢者救急は全部を横手に搬送するというわけではないので、それは地域の方でやれるものはやるという形でそのトリアージをしっかりとすることで解決はできるかと思っている。

#### 【町立羽後病院長】

- ・まず高齢者救急に手術が必要かどうかということに関しては、まだ余力があるうちはこれ続けるべきだと思っている。

- ・高齢者救急だからオペしないでくださいとかそういうのは全く別の話である。整形等について、大学からの応援もある状況なので、我々はもうやるしかないと思う。
- ・なので、その手術が必要かどうかに関して、やれることはやる、それ以上のことは紹介するという風な立場でやっていきたいと思っている。

#### 【島田アドバイザー】

- ・私の方から2つ触れさせていただきたい。
- ・1つはまず年末年始の救急外来の件だが、この地域では市内のクリニックが発熱外来を開始されたということで非常に素晴らしい取り組みだと思う。
- ・そしてまた市からの支援もあったということでそれも素晴らしい。ただ今回の年末年始は発熱患者がピークを越えて減少局面にあり、県内全てそういう状況だったと思うので、これがまた前年のようにピークが年末年始に重なるような時であればまた大変な状況になるのかなと危惧される。
- ・#7119がこの秋から始まるということでこれには期待したい。今年度の年末年始は急遽秋田県医師会が電話相談を行ったわけだが、次の年末年始に向けて、#7119そして今回のクリニックの発熱外来と同じ形でこの地区で実施するのか等、皆様にご相談いただいて実現可能な形を検討していただければと思う。
- ・もう1点が地域医療構想である。この地区は病床数が現状の地域医療構想の必要数を下回ったということであるが、介護医療院や老健や特養がその慢性期の機能支えていると思うので、必ずしも必要数を下回っているから大変だというわけではない。
- ・新たな地域医療構想に関してはこれから在宅医療を含めて進んでいくと認識している。

#### 【県医務薬事課】

- ・提案というか確認になるが、来年度の会議については旧二次医療圏単位ではなく、急性期拠点病院を中心とした区域ごとというようなことで考えており、横手と湯沢・雄勝区域を一緒に開催させていただきたいと考えているところだが、これについていかがか。

#### 【雄勝中央病院長】

- ・それは大変いいことだと思う。

### (3)その他

#### 【雄勝中央病院長】

- ・医療機関と介護施設（老人ホーム、老健も合わせて）だが、先ほど鎌田先生からもあったように、ベッドが満床で後方の方もなかなか空かないというような状況はある。
- ・以前も話したのだが、お互いにその施設ごとにどのような空床状況があるかというのをリアルタイムに見られるような方法を県の方、市町村でもいいが、行政の方で考えてみてくれという話をしたがその後どうなっているか。

#### 【県医務薬事課】

・それについてはちょっとまだ進んでいない状況であるので、もう一度検討させていただきたいと思う。

【雄勝中央病院長】

・やはりやっていってもらわないと進まないと思うが、実際、雄勝中央病院と平鹿総合病院は毎朝、空床状況を把握できるように事務方の方で調整しているので、他の市立病院や横手市内の病院なども含めて病院の情報は共有できると思うし、介護の方の施設もベッドを融通するために是非早めに進めてもらえればと思う。